言者ムハンマドの婚姻（　）：　素な人生

：

明:

言者ムハンマドの人生の 々なステ ジで交わされた婚姻。その2:　言者の 素な人生のいくつかの 面と、それが彼の婚姻の理由にどう びつくか。

目: 事 言者ムハンマド彼の

より: IslamReligion.com

日05 Mar 2012

集日 05 Mar 2012

第四のステ ジ

ヒジュラ 8年にマッカを征服した 、 争の大部分は　していました。この 、 言者ムハンマドは新たに婚姻を交わしてはいません。このことからも、 言者は不安定で 争が く 期だけ、子どもと妻を守るため、そしてイスラ ム国家を 大し安定させるために妻を迎えたということが分かるでしょう。

言者ムハンマドのモラルに沿った生き方は彼の も 言していますし、このことはクルアンの中でも、神が 言者の中 者たちに、彼になにかモラルを欠く部分があるか、雄弁にねている部分でも述べられています。神は 言者ムハンマドにこう言いました。

“?…??”??????10?16?

も彼の性格に、けちをつけられるような欠点を つけることはできませんでした。しかし何の　もなしに彼のことを 欺 だとか、クルア ンの 者などとする主 がありましたが、もし本当にそうだったのであれば、彼は神の 言者であるという　のためにモラルのある生活を送ったりしたでしょうか?

彼の 素な生活

多くの婚姻を交わしたマディ ナでの彼の生活は、 して　で快 なものではありませんでした。　には、彼は多くの死に直面し、多神教徒たちの いに追われた しい状 にありました。マディ ナの入り口には多くの　がムスリムを ぼすために待ち えており、アラビア半 のほとんどの部族が彼の でした。　は休みなく行われ、 利の余 に浸る　も、 北の悲しみにくれる暇もありませんでした。また 任者として、自分の欲望に浸っている　などもありませんでした。欲望に狩られた普通の男性でさえ、このような には自らの欲望に浸ることなどできないでしょう。

孤 であった 言者は最 的にアラビア半 の 治者となりますが、彼の 素な生活を えることはありませんでした。彼は同じように 素な食生活を送り、若い に着ていた 素な衣 、またはそれよりもっと祖末なものを身にまとっていました。彼の寝室の家具はヤシの木のでつくられた寝床で、固さのためにしばしば彼の体に を残すようなもので、彼に近しい教友がこう ねたほどでした。

??

彼はよく食事すらままならない日々を送っていましたし、彼の家から食べ物の支度をする火がおこされない日々が何日も きました。このような に彼は、ナツメヤシと水だけで家族と ごしていました。彼の手元に公共の　があったにも わらず、です。彼の教友たちの中には裕福な者もいましたし、彼らは 言者のためなら何でも 牲にしたでしょうから、もし彼が望んだならば快 な生活を送ることも出来たでしょう。しかし、 言者としてのふるまいとして神に命じられたように、彼は自分自身と家族の に、 しい人に集められたお金を使うことはありませんでした。 しいときにも かなときにも、人生の快に身を投じるような人ではなかったのです。

夜

言者ムハンマドは多くの妻を娶りましたが、彼は夫　での しみだけで夜を ごすことはありませんでした。 言者は神からこう命じられていたのです。

“??”??????73?2?4?

彼の妻たちは、彼の足が礼 で立ち けるために れてしまっていたと 明しています。彼の的な礼 は、快 のために捧げられた人生には属さないものです。

彼の妻たちの 素な生活

マディ ナに来たあと、交易が繁 し、イスラ ム教徒の生活は わりました。征服された各地から 々な物品が提供され始め、 言者の妻たちは自然と、与えられるべき快 な生活を求め始めました。しかし神はこう 示しました。

“??”??????33?28?29?

妻たち全 が他の　肢を与えられましたが、 もより心地よい生活のために 言者のもとから去ることはありませんでした。もし彼女たちが彼を 欺 だと思ったり、彼の性格に少しでも欠点を つけていたら、彼のもとを去っていたでしょう。しかしそのようなことをする者はなく、全 が彼の妻であるという 誉を びました。もし彼が快 に溺れた人であったなら、妻たちの いを き入れ、彼女たちが世の快 に少しでも 倒していたならば、全 と婚していたでしょう。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/210

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。